

特250

899

# 辰村保所 と遊具



内務省  
18.6.-5  
(普通出版)



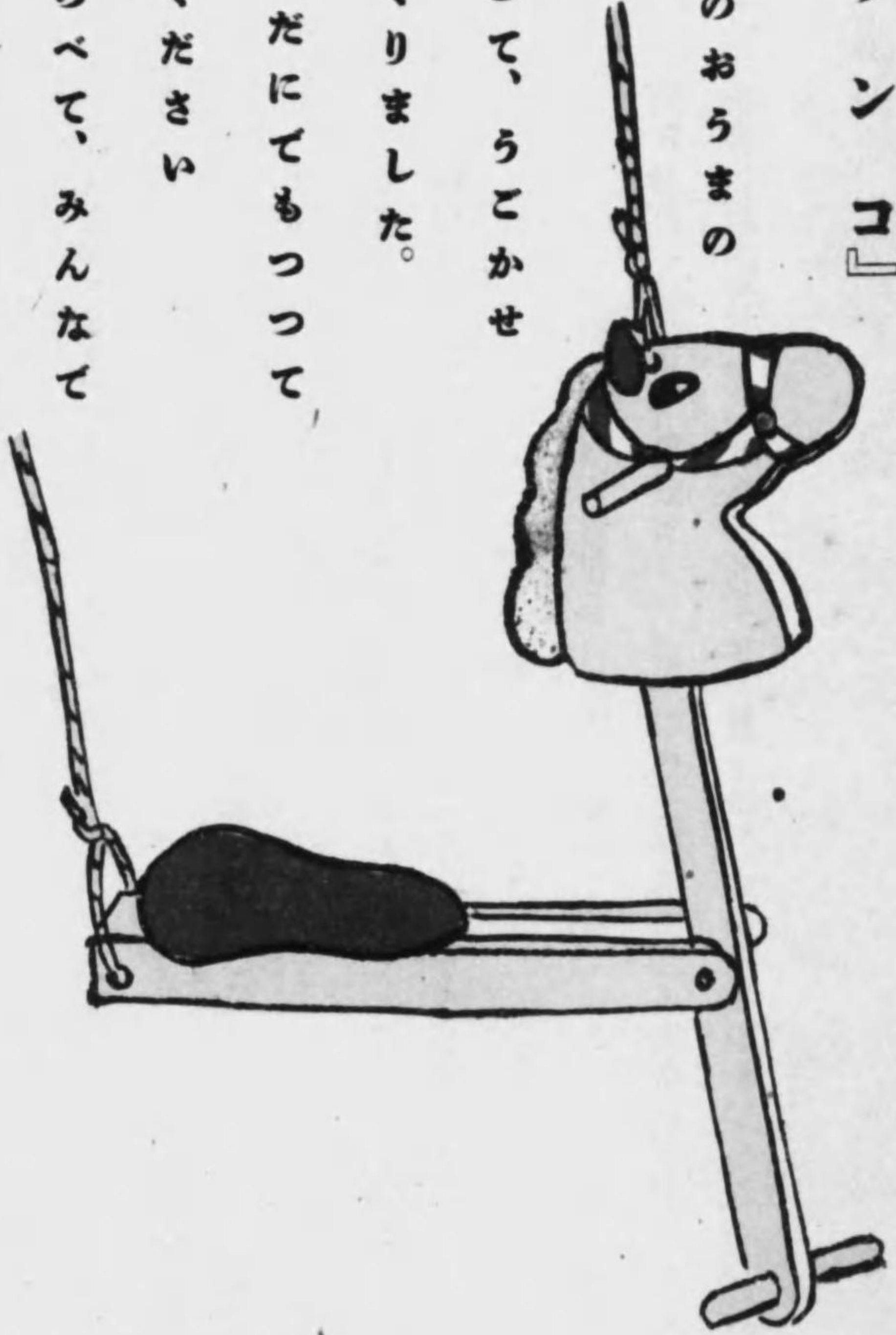
# 始



特 250  
899

『ブランコ』

三四さいむきのおうまの  
ブランコです。  
ひとりで、のつて、うごかせ



るやうに  
つくりました。  
いだにでもつつて  
あそびせて  
ください  
いづつならべて、みんなで  
のれたら、なほよろこぶてしやう。



## 農村保育所と玩具の役割

大東亞戦争は農村から戦場並に緊急生産面に多数壯青年を動員した。銃後の食糧確保の爲には男子勞力のみ依存するを得ず農村への正規作業力として婦人勞力を参加せしめ老幼弱小勞力をも加へて増産力とするに至つた。婦人が積極的に食糧増産に重要な役割を擔ふためには農婦の家事勞務軽減を計るべきである。

母性最大の關心事である育児炊事等を短期乍ら社會性の組織をして代行させること、なつたのが素朴な端緒的な形態ではあつても農繁期の共同炊事と託兒所とであろう。こゝでは共同炊事のことは暫く置き農村託兒所のみを取上げることとする。

農村託兒所の歴史は新しく農家の幼兒の生命を守ることを第一義的な使命として發足した。自然發生的な初期の託兒所は手取早く言ふならば共同子守場の域を脱せず猫の手も借りた農家では幼兒が怪俄もせず川へも陥らず世話して貰へるだけで大いに助かり事足りたであろう。近代戦は過去の短期武力戦一点張りの形態ではなく一國の戦力の總和が敵に全面的に向けられると共に將來の國力を蓄積涵養することにも鋭意努力しなければならぬ。

次代の國力の中核をなすものが現在の子供であり殊に長期戦の場合この少國民を心身共にすこやかに育てねばならぬことは改めて言ふまでもない。『民族の花は——子供である』と言ふ表現も生れる譯だが極言するならば正しい保育こそ次代の戦力の基幹である。如何に短期と雖も農村託兒所が共同子守場所たるに甘んぜず託兒所から保育所となり素朴な意味の生命を守ること勿論なるも、この好機を最も有効に活かして兒童心身の良き社會的な養を植付ける機會場所たらしめたい託兒所に於ては幼兒達は家庭では知らなかつた社會的な陶冶の機會を與へられ、母親たちは保育家庭生活等の合理化を發見するであらう。

託兒所が農繁一時期の問題のみではなく農村の母性と子供の文化を培ふところの重要な役割を果すためには將來に於ては眞に國家的な保育施設として擴充せられ、その方法目的も皇民鍊成の観点よりなされるべきである。

幼兒の基礎的鍊成の發足場所として國民學校以前に於ては當然家庭教育の推進体として國家的に重視されるべきである。乍然現在にあつては間に合はせ式な託兒所のみ多く『赤ちやん話』一つ出来る保姆があるではなし保育設備のあらう筈も無い。従つて子供達が組織的に集る場所であるから幼兒の集團的社會生活の第一歩としての意義ある候場所、慎重に幼兒の心身を伸ばす鍊成場と

考へてくれる主催者が幾人あらう。如何に戦争であるとは言へみ<sup>た</sup>からである子供達の逞しい發育を計らずして何の増産何の戦であらう。幼兒の生活が睡眠以外は總て遊びであること。幼兒の時の何でもない様な遊び方が人間の將來を正しくも誤つても共に強く規定する事實を見逃してはならない。

就學前の子供の生活が國民學校へ入つてからも更に大人になつてからも強い影響を持つのは何故と言ふに子供の時期には身体及腦髓が急速に發達すると共に各種の本能感覺が發現しそれが環境の事情により固定されるからである。

感覺、知覺、記憶、想像、思考などが驚くべき速さで發達し精神生活のみならず身体發展の基礎を築くが故である。玩具はこれらの心身兩面の活動發達に對し好個の材料を供給するものである被服食物は考へても幼兒の魂の糧を考へる當事者の何と少いことか。子供達の教育は國民學校へ入つてから始まるもの、如く考へる親さへあるは誠に遺憾である。幼兒はむしろ學校へ向つて卒業して行くことすら言へる。國を守るに國民皆兵であると同様に國民皆教育者でなければならぬ。そのみならず國民生活の總ての領域が、すべての物が、その中に潜む教化力を發揮せねばならぬ秋である。

兒童鍊成のためにも教育力の總動員が必要であり玩具の持つ感化力、教育力も正に動員されるべきであることを指摘したい。

子供の最も喜ぶ玩具に依つて子供に教育的な影響を與へそれに依つて心身を鍊磨せしむべきだ。言ひ換へるならば玩具のもつ教育力を最高度に發揮させなければならぬ。玩具の持つ教育力は子供が知らずに採入れさせられる力である。無意識的であるから強いものであると言へる。

學校教育に於けるが如く人爲的な意識的な教育は案外子供の表面にのみ作用することが多い、意識なき感受がむしろ内在的な持続的な強い感化力を持ち、子供の性格の根深いところまで影響を與へるものである。

學校教育よりも家庭教育が強い教育力を持つことに考へ及ぶなら、親の言動にもまして強い感化力を持つ幼時の遊び友達これらが集團的に生活する保育所の力を疑視すべきだ。

幼兒の一切の生活は遊びであつて候も鍛鍊も總て遊びを媒体としてのみ採入れられる。然も遊びの媒体となる玩具を等閑視して乳幼兒の保育に血が通ふ譯が無い。託兒所の玩具が貧弱では長時間の保育に子供達は無秩序になり勝であり殊に保姆が臨時の人であつたり保育藝術の足らぬ場合これが痛感される。

玩具は子供の遊びを發展せしめる媒体となり契機となるものであるが、子供の全生活は遊びでありその指導はとりも直さず教育であるが故に幼兒の玩具は教育としての性格鍊成の素地を持たねばならぬ。従つてこの點を意企する玩具は所謂概念の玩具ではなくして新しい世紀への教具であると言ひ得る。

玩具が子供にとつてなくてはならぬものであるとの謂は樂しませつ、智能や情操を啓發し心身を正しく涵養するものである場合である。皇國民として鍊成に役立つところの教育的な一面を持ち殊に集團性を活し社會性を伸ばす視野から今日に於ては玩具と雖も個人主義的な與へ方をすべきでは無い。

子供の集團性、社會性を眞に活かすために與へられた優れた保育具でこのやうに遊ぶべきであることを示す適切な指導がありたい。例へ良い玩具保育具も又は教育的なりや否やの問題も指導如何に依つて活きも死にもする。以上の理由に依り農村保育所玩具、隣組玩具箱等を検討、擴充しこれに依り勞力資材等を共同化し他面生産を増強し生活を簡素化すべき必要が生ずる。

國の子供達を強く育成する爲に農村保育所に關連して識者から保育玩具を子供に與へる組織を眞劍に考へて欲しいと思ふ。

## 保育所用玩具試作に當りて

自由主義時代の物のあり方は實に不自然であつた。先づその營利性の高さによつて價值をふまれて居た、その結果は藝術すらも金錢の奴隸化し姑息に生きねばならぬ悲しみがあつた。玩具にしてもその通りで、兒童文化財として當然内面的に深く掘り下げられる可きに、ただ經濟の面にだけ左右され、商品としてのみ扱われて來た處に嘘があり既に行きづまる運命が約束されて居た。賣れるから作るといふ資本主義的な考へは兒童文化のごとき聖なるものに對してまで、ただ利潤の面だけを取り擧げて、てんとして、恥ないのである。近頃玩具は良くなりつゝあると言はれてゐる、しかし業者はいかに良いものであつても儲からねば決して作らない、そうなるか良い玩具が生れて見よう筈がないのである。

だから營利を對照としなかつた頃の郷土玩具と呼ばれてゐるものゝ一部に技術や製作意圖はともかく、しかもすなほな愛情の深さと、玩具としての純粹さを見出せるのである。そしてそれが草深い山間の村々で多く生れた事實を兒童文化にたすさわる者は深く反省して見なければならぬ偉大なる歴史の創造される秋國民の一人一人が謙虛な氣持で懸命にたくましく生きて行かねばならぬ。

今日、玩具にたすさわる者も、もう一度振り出しに戻つて新しく純粹な氣持で出なほさねばならぬ。

戰爭に破れて文化はあり得まい、いかにそれが完成された文化財であるか信じられていたにしてもそれらの文化財を置いて巴里から逃だしたフランス兵のだらしなさは嘲笑されなければならぬしそこに本當の文化があつたさうなづけけない。

どうしても戰爭に勝たねばならぬ、勝つ爲の文化であるその上建設戰は今後何十年何百年かゝるか解らぬ此處に兒童の問題は祖國の將來を約束する絶對性が見出せるのだ。その寶の如き兒童の爲文化企業の營利性を限定する(波多野完治)この叫びは實に當然であつてすべての企業に先達つて解決しなければならぬ焦眉の問題であらう。

なかなか容易な事ではあるまいがそれだけやり甲斐のある荆棘の道であらうし、それをなしとげる事が職能人として祖國への報恩である。

兒童文化が營利の支配からのがれて指導性を持つには今の機會を置いては決してないと思われし此の事を成しとげるか否かが祖國の興隆を擔ふ一端であると言つても過言ではあるまい。

玩具の歴史に特筆される郷土玩具の多くが農村に生み出された事は農村に玩具を送る者に大きな

勇氣を興へる反面それが決して生半可なものでは許されないと云ふ責任を感じさせる、自然の下ですなほに育てられほ、笑ましい遊びをいくつも持つてゐる農村の子供等に大人の觀念で作つたものを興へる事に一抹疑懼を覺へられないでもない。

だが農村には兒童の創造による玩具や。遊びはあるが今日迄放任されて居て決して多つめられ育てられたとは言われなかつた、その上前に申した通り營利を主体とした生産は文化財の偏在をもたらしした。都會には實に氾濫し農村には何一つ送つてやらなかつた、食糧の生産地としては勿論人的資源の培養地として農村の問題は實に國家の問題でありその子供等をいかに伸す可きかは兒童文化にたずさわる者にとつてどうしても解決しなければならぬ焦眉の課題であらう。

かく考へて來ると兒童文化財を先づ營利から切り離し本然の姿に立歸らせ、しかも第一に農村に送り込まねばならぬとの結論を得るのである。さてそれを實行に移すとになるといふような點が問題になるが、第一につまじやかな生活を送つてゐる農村の人々にとつては經濟の面が大きな條件になつて考へられる、その上子供の社會の等質性を考へて個々の興へ方ではなくして全体的でありたい、そこに集團的である保育所が對照として或る程度理想な形であると思われたい。さてその保育所用遊具としてどんなものを製作したら良いかと言ふ具体的な問題になると地方的

な風俗習慣或は自然から恵まれる草や木や、いろんなものが條件として考へられるので早急な解決は望まれない。よつて完全とは言われぬが別紙意匠を試作しその概を

- (1) 情操を養ふもの
- (2) 身体の運動を誘導するもの
- (3) 集團的に仲よく遊ぶものに置き製作した。

拙速ではあるがこれ等を興へて新しい遊びを試みたいと考へる。

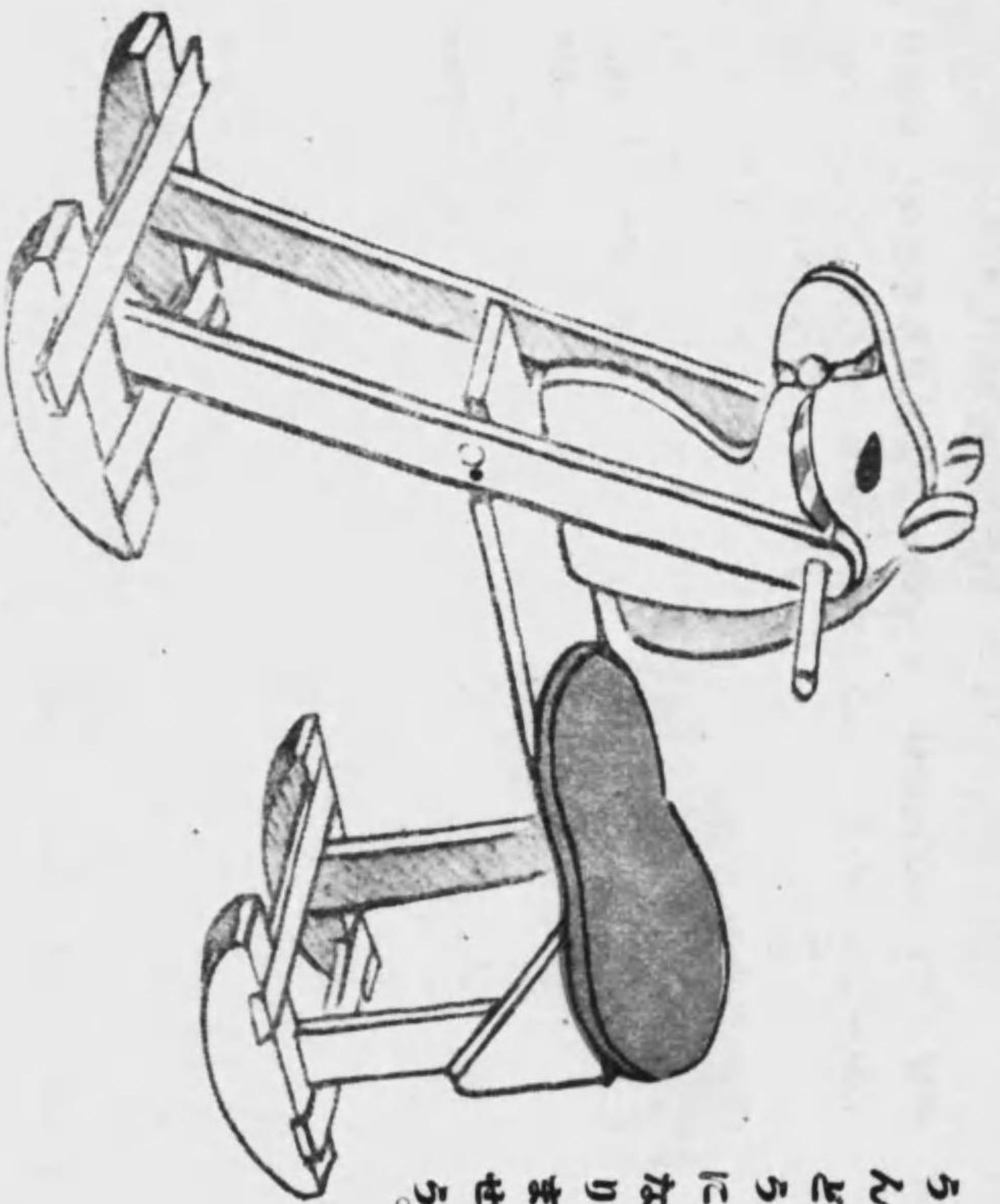
勿論本當の仕事はこれからであつて一層勉強して立派なものを生み出したい念願である。

附記 詳細は意匠に説明を入れて遊びの參考にしたい。

“す、むくば”

まつかなくらを、おいた  
かあいゝもくばがあつて、ひとりて  
のつて、はしれます。

ならべてきやうそろもてきますし  
たのしくあそんでゐ、うちに  
しらすしらすに、てやあしの  
うんどうになります。





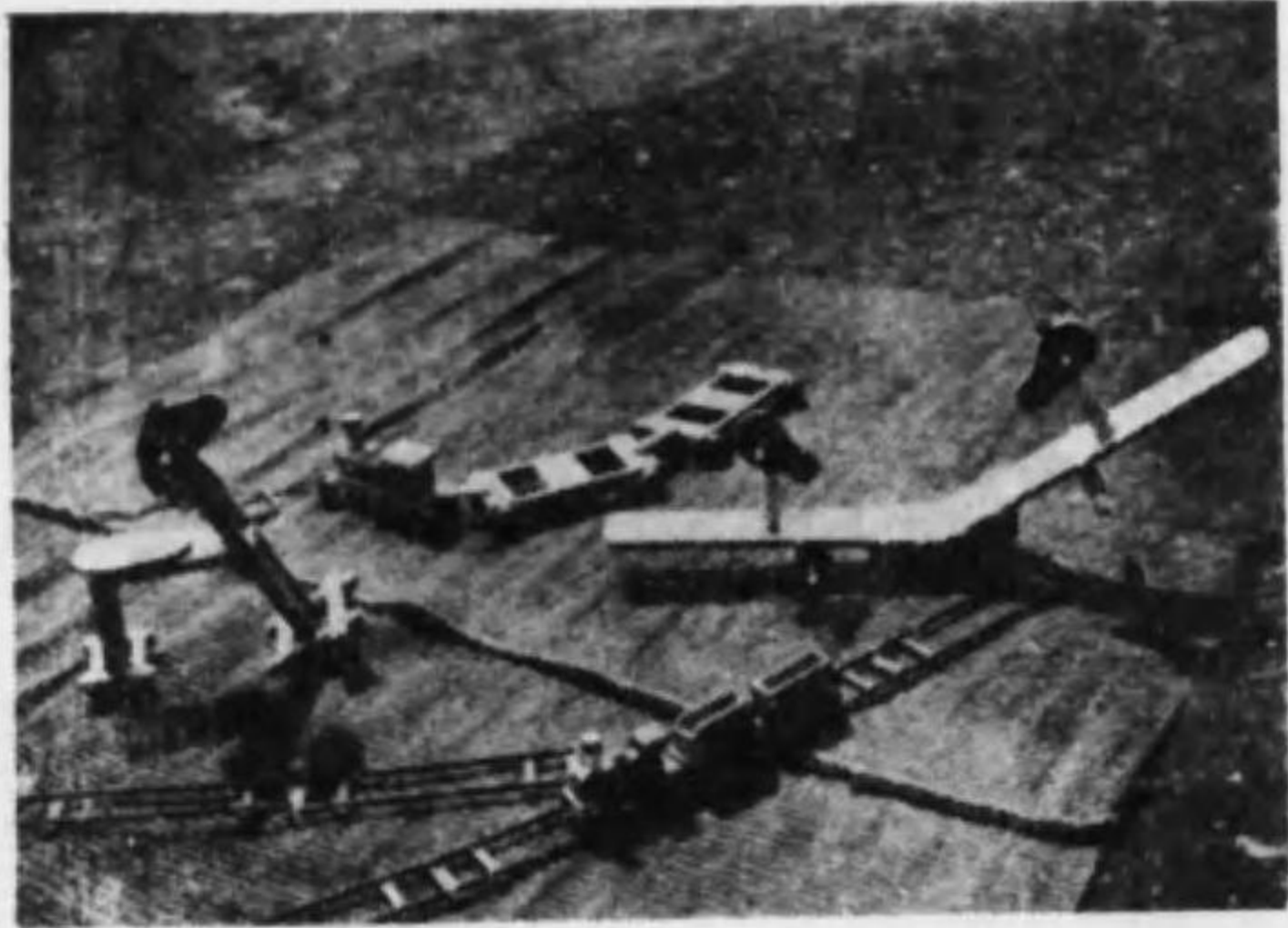
『軌道附汽車』

こどもたちはキシヤがだいすきです、どこまでもつないでゆけるせんろがあつて、そのうへを、やなせキシヤをはしらせたらどんなによろこんで、あそんでくれるだろう。

このキシヤをあたへ、たゞこどもたちの、さうぞうにまかせてあそばせてやつてください、やまや、さかや、トンネルやいろんなものをつくつて一日たのしくあそびます。

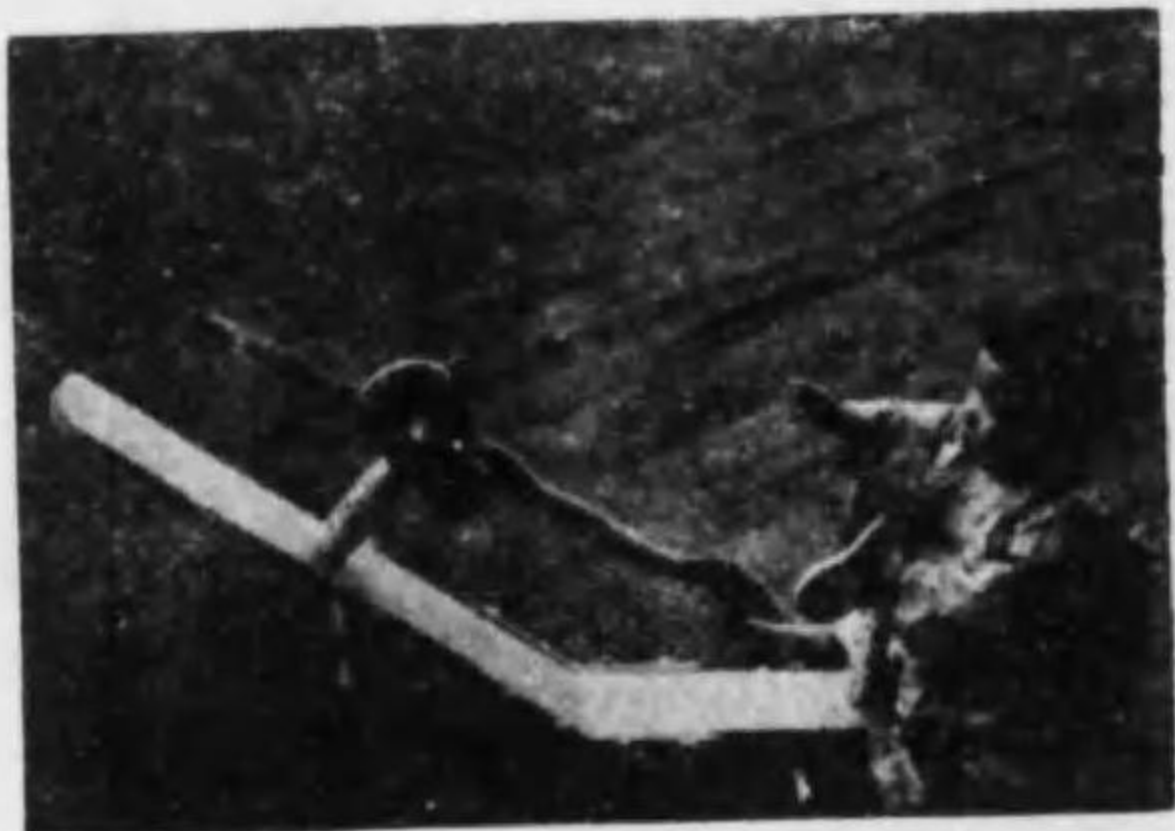
『連結汽車』

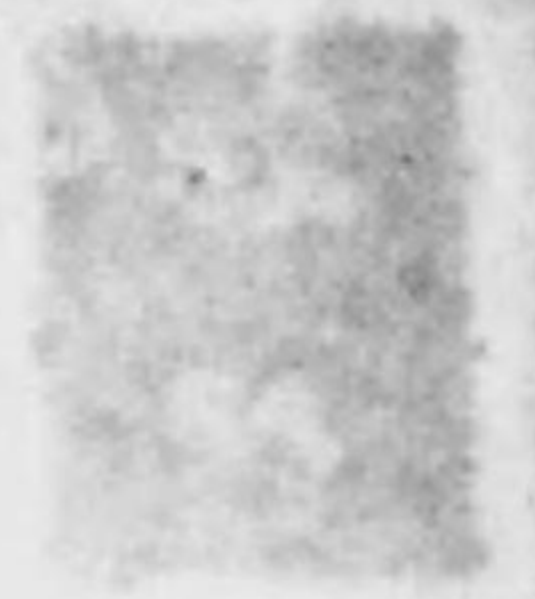
のつてあそべるじやうぶなキシヤがあればとおもつて、このキシヤをつくりました、三にんのつて三にんで、ひいて、なかよくあそびませう。



『ギツタン バツタン』

二三さい、むきのかわい、ロボのギツタン バツタン、あがつたりさがつたり、まわつたりてきますそして、しらすしらすに、せんしんの、うんどうにもなります。





Faint, illegible text in the upper portion of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.



Faint, illegible text in the lower portion of the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

昭和十八年六月五日印刷  
昭和十八年六月十日發行

### 農村保育所と遊具 (非賣品)

編輯兼 新潟縣南魚沼郡六日町  
發行者 大政翼賛會南魚沼郡支部文化委員會

印刷者 小幡 茂 文  
新潟縣南魚沼郡大卷村大字五日町七番地ノ一

印刷所 上熊 太郎  
新潟縣南魚沼郡大卷村大字五日町七番地ノ一  
(東新一九二) 精巧堂印刷所

發行所 新潟縣南魚沼郡六日町  
大政翼賛會南魚沼郡支部

終

